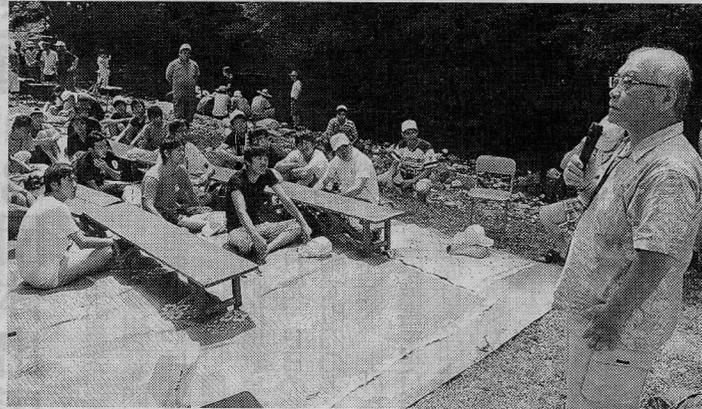


清流復活へ実りの20年

一関大東の下内野自治会

「石磨き」や水質調査

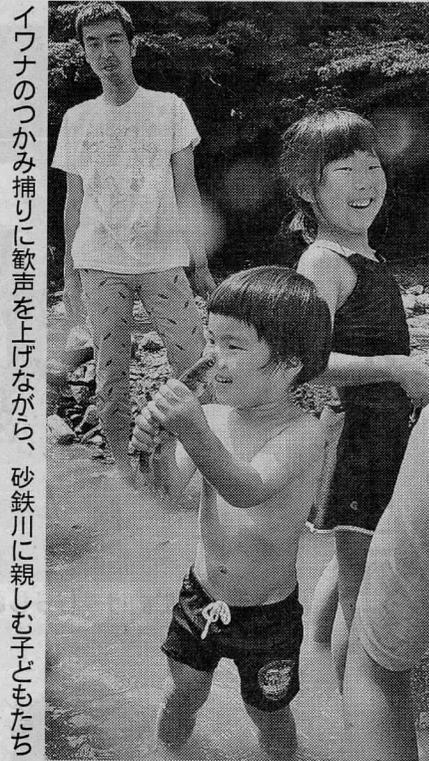
住民と日大生、活動共に



砂鉄川河川敷での交流会で、河野英一学部長(右)の話に耳を傾ける学生と住民

一関市大東町の下内野自治会(勝部欣一会長)は11日、地元の砂鉄川河川敷で「第20回石磨き大会」を開いた。カジカが生息できる水生環境の復活へ、日本大と共同で1994年から取り組み、今では川を生かしたユニークな地域づくりとして注目を集める。石に付いた有機物を流す石磨きやイワナのつかみ捕りなど、住民と学生が共に川に親しみながら、交流の継続と環境保全を誓った。

下内野地区の全世帯 彰などごまごまな受賞と日本大の地域環境保 を重ねた歩みを回想。 全学研究室の学生ら計 「日本の自然は農業に 約130人が参加。河 携わる皆さんあってこ 川に関する学生の研究 そ。素晴らしい自然を 発表に続き、特製の「古 守ろう」と呼び掛けた。 縄たわし」を使った石 同大大学院の吉野雄 磨きがスタート。水質 介さん(23)は「今後も 調査も行い、清流化へ 40年、60年と交流を続 心をついにした。



交流会では、長年指導に当たる日本大生物資源科学部の河野英一学部長(67)が「20年前、講演会をきっかけに地区の方に『石でも磨きつか』と何げなく提案したことが、ここまで続いた」と、環境大臣表

イワナのつかみ捕りに歓声を上げながら、砂鉄川に親しむ子どもたち

け、自分たちの研究成内外との交流にもつな 果を皆さんに還元した かった。小さな集落で い」と意欲。開始時の もみんなで力を合わせ 自治会長だった勝部昌 れば、一つの興味が本 平さん(70)は「活動を 物になる」と思いを込 通し視野が広がり、国 めた。